

第 2790 地区 R L I  
第三回ファシリテーター  
ブラッシュアップ研修会  
記録

2023 年 11 月 4 日（土） 於 千葉市民会館





第3回F Tフラッシュアップ研修会 鶴沢和広ガバナー年度  
司会進行 佟 雪蓮（白井 RC）



ご挨拶 RLI 推進委員長 清田 浩義（千葉 RC）

改めまして、皆様こんにちは。土曜日の中、お忙しい中お集まり頂いてありがとうございます。今、トウさんからもお話ありましたように、本来3階特別第2会議室に皆さん集まって頂いて、集合研修というところから始まるのですが、実はですね我々推進委員会の手違いがありましてですね、会場の予約が間違っておりまして、実は、皆さんに大変ご迷惑をおかけすることになってしまいました。本来特別第2会議室を、それから4階のこの2部屋を遣って、全部で4つの班に分かれて、本来、第3回ファシリテーターフラッシュアップ研修会は、初めての方、山本さん、それから矢代さん、高山さんもそうですね。中心に、ファシリテーションのトライアルというか、その形で本来、沢山、やって頂くと、いうことなんですね。会場の設定上、結果的に、トライアルのセッションができないことに、なってしまいました。改めて、皆さんに、お詫びを申し上げて、御理解頂けると思っています。今日の、流れを、ご説明させて頂きたいと思います。1階でお配りした、プログラム、緊急対応のプログラムを御覧頂きながら、封筒の資料のなかにある、プログラムとは、変わっておりますので、御覧頂ければと思います。第3回ファシリテーターフラッシュアップ研修会の次第、緊急対応と書いてあるプログラムを見て頂いて、今、1時半から、開講させて頂きます。本来、梶原パストガバナーで、RLI日本支部 地区代表委員 が、開講のときにご挨拶をさせて頂くのですが、最後に、ご挨拶頂いてというふうに、したいと思っています。そして、進め方ですが、特別会議室第2がとれないので、第2第4会議室、第2については、周藤前委員長のほうから、第4のほうは、私が、開講のご説明をさせて頂きます。今日のプログラムを御覧頂くと、開講式ということで、ご説明をさせて頂いているということです。今日のプログラムを御覧頂くと、45分、説明の時間、それから、45分から、引き続きになりますが、パートシリーズに向けての、セッションチーム作りと、ファシリテーションスキルの、向上ということで、後ほど、また、資料を使って、ご説明させて頂きますけれども、本来、第3回フラッシュアップ研修会はですね、来年2月からのパートシリーズに向けて、全部で、6セッションチーム、6つのチームが、できるのですが、その6つのチームのチーム編成と、それから、そのチームが、それぞれ、担当するセッションテーマを御理解して頂いて、事



前準備、それから、今日も、また、皆さんから、自己紹介、お話ししていただきますけれども、セッションメンバー、皆さんのチームワークづくりということで、そんな時間にしたいというふうに、思っています。それから、今回、皆さんに、今年度ですね、たぶん、全員皆さんお持ちだと思いますが、ファシリテーションガイドブックができましたので、御覧になった方は、お感じになったかもしれませんが、今まで、昨年まではですね、このRLIは、ディスカッションリーダーが、それぞれのセッションの進行役ということで、していましたけれども、今年度から、ディスカッションリーダーではなく、呼称、ファシリテーターというふうに、変わりました。そして、あらためて、ファシリテーションとは、何なのか。今まで、DLと言って私自身もやっていたけれども、ファシリテーションは、本当に奥が深いあと、強く感じるころなのですが、このガイドブックができたおかげですね、ファシリテーションとは、何なのか、ファシリテーターというのは、どういうふうに、対応したらよいのかというふうに、まさに、バイブルのように、読みながら、それぞれ、ファシリテーターとして、疑問が湧いたときに、疑問が湧いたら、ガイドブックに立ち返る。そんなふうに、ガイドブック使っただけだと、思っています。そういうことで、1時45分から、2時までの間、ファシリテーションお話を少しさせて頂いて、その後、2時から、10分間休憩を挟んで、その後、皆さんとコミュニケーションと、今、お話した、ガイドブックを使ってですね、ファシリテーションについての意見交換をするということで、進めていきたいと思えます。3時半まで、行って、閉講式を20分かからないと思えますが、4時くらいまでに、全てのプログラムを終わりにしたいというふうに、思えます。下で、受付したかもしれませんが、今日も懇親会を用意しておりますので、是非、御参加頂ければというふうに思えます。以上、今日の全体の流れ、ご説明をさせていただきました。今日、会議室で、なかなか、こう、皆さんでいつものように、ダイアログ、対話をする場ではないのですが、とはいえ、いろいろお話をそれぞれが、して頂いてですね、やっぱり、自分で、話しをすることが、理解をすることにもつながりますので、このあと、そういう時間を沢山設けて、最後まで進めていきたいと思えますので、よろしく願います以上のようなところが、最初の開講の説明ということになりますが、皆さんから、何か質問よろしいですかね。はい。ありがとうございます。



『パートシリーズに向けてのセッションチーム作りとファシリテーションスキルの向上』

RLI 推進委員長 清田 浩義 (千葉 RC)

それでは、引き続き、パートシリーズに向けてのセッションチーム作りと、ファシリテーションスキルの向上という、プログラムに入っていきたいと思えます。皆さん、今日は封筒の中に入っている資料を御覧いただけますか。ページでいうと2頁目。3頁目。ディスカッションリーダー（実行委員）各位と書いて



である、ところを御覧頂けますか。ごめんなさい。その前に、その次のページ。セッションチーム編成パートⅠ～パートⅡ パートⅢチーム編成予定案ということで、書いてあります。御覧ください。前年度よりパートⅢを5チームでやるという、変則的な、やり方をしております。まずは、上のほうについてなのですが、AチームからFチームがあって、それぞれ、個人がどのチームに入っているかということになります。今日、高宮さん、このチームに入っていないから、入っていないから、入らないのではなくて、入って頂きますので、ないほうが、よいというふうに、言わずに、このなかに、ご自分の名前がないかた、いますか。

茂原 RC 金坂さん Aチーム  
千葉中央 RC 松本さん Cチーム  
船橋西 RC 高宮さん Fチーム  
となります。

来年の2月から、パートシリーズが始まりますけれども、今月の27日にセッションチームリーダーとサブリーダーのミーティングを行って、12月の始めから、この実行委員会のチームを、最終チーム編成します。それで、ちょっと前のページに戻って頂いて、先ほどちょっとご案内しました、案内状です。今回、3回のファシリテーション研修会に御参加頂いている方は、あれなんです、今、172名のファシリテーターの資格を持っていらっしゃる方がこの第2790地区にいます。基本的には、資格を持っていらっしゃる方に、見て頂いているページの案内を、差し上げて、明日、ガバナー事務所から、来週配信して頂くように、していきます。そして、11月中に、参加希望を募らせて頂いて、12月の頭に、実行委員会を、最終チーム作りを、します。そして、先程見て頂いたような、AチームからFチームに、改めて、参加を希望されるファシリテーターの皆さんを、含めて、チーム編成をすることに、なっています。今、皆さんに御覧になった方々、昨年度も、各チーム8人くらいの皆さんが、実行委員になって頂いて、活動して頂きました。是非今年度は、昨年度以上に、より多くの実行委員の皆さんに、御参加頂けるように、進めたいというふうに、思っています。それから、改めて、パートシリーズ、来年の2月から、

パートⅠ 2月10日

パートⅡ 3月9日

パートⅢ 4月6日

です。

それぞれ、全部土曜日ですので、土曜日の朝、9時から夕方5時までということで、長丁場になりますが、よろしくお願いたします。昨年もそうだったのですが、なかなか実行委員の皆さん、終日、お集まりになりにくい場合もある



と思いますので、ご自分の都合に合わせて、御都合のよい時間、午後のセッションだけとか、午前のセッションだけとかですね、そんな風な、参加の仕方、ウェルカムでございますので、是非、よろしくお願い致します。今年度、私も地区の委員会に参加して、ガバナー補佐経由でもありますが、第2グループの情報研修会と一緒にさせて頂いて、比較的2グループは、ファシリテーター、DLの方があまりいらっしゃらないので、そのなかで、吉田さんにお話させて頂いて、RLIって、こんなに素晴らしいんですよ。という話しをして頂いてですね。かなり、皆さん、「あっ。そういうものなのか。」ということで、高宮さん、うなずいて頂いてますけれども、「そんなに面白そうなら、行ってみるか。」という流れが、少しずつ、広がってきてますので、是非、来年、皆さん実行委員になって頂く皆さんにはですね、是非、お力をお貸し頂ければというふうに思いますし、今日は、久しぶりに、富さんも。富さん、あとでゆっくり自己紹介させていただきますので、ファシリテーター第1号。この第2790地区の第1期生ですよ。第1期だからといって、年ではなくて、若い富さんが、今回、是非、出たいと、私のほうから見ると、御参加頂いて、ありがたい限りです。より多くの実行委員会の皆さんに御参加頂いて、今年度の推進委員会のテーマでもあります、基本的に楽しいRLI実行委員会 RLIのプログラムにしたいというふうに思います。是非、皆さんからも、直にファシリテーターの方に、お声をかけていただければと思います。ということで、ご説明させて頂いたように、実行委員会、セッションチームの編成、実行委員会への御参加頂く、ご案内について、説明をさせて頂きました。改めてチーム編成のお話しを言いますと、Cチームのセッションチームリーダーと、サブリーダーいますので、松岡さん、チームリーダーとしての、自己紹介ということで。



Cチームリーダー 松岡 邦佳（木更津東RC）

皆さんこんにちは。（会場 こんにちは）木更津東RCの松岡と言います。そこに数字が書いてあるのですが、第12期ということで、昨年デビューしたはずなのに、何故か、こんなことになって（会場 大笑）しまって、まあ、無茶振りのRLIなのは知っていますので、言われたからには、やらせて頂くということで、今回Cチームのリーダーをさせて頂くことになりました。まだまだ経験不足のところもありますが、他の皆様より、自分として、優れて、優れているわけじゃないのですが、僕、3つの地区のRLIに参加してますので、第2530地区、第2510地区、第2790地区と、3つありますんで、それぞれの良いところを、取り入れながら、Cチーム運営していきたいと思いますので、皆さんの御協力、よろしくお願い致します。



Cチームサブリーダー 佟 雪蓮（白井RC）

すいません。実は私も、卒業というか、昨年やって、いきなり、こういう立場になったのですが、まだ、本当に日々、先輩の背中を見ながら、勉強して、やっていくところなんです、どこかで力になるかわかりませんが、自分も勉強





をしながら、皆さんと共に、セッションできたらと、思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。



F チームリーダー 清田 浩義 (千葉 RC)

私がセッション F チームのリーダーをさせていただきます。



F チームサブリーダー 櫻井 宇人 (千葉 RC)

改めまして、こんにちは。先程、12 期の方が、昨年なったばかりで、大役を仰せつかったという話があったのですが、この場を見て頂くとわかるのですが、12 期の多いこと。いかに優秀かって、わかります。9 期は、自分一人しかいない。肩身が狭いですけど、一生懸命にがんばります。よろしくお願いいたします。

B チームリーダー 山本 衛 (松戸西 RC)

B チームのチームリーダーを仰せつかりました山本と申します。よろしくお願いいたします。5 年くらい RLI やっていますけれども、ずっと、RLI 向かい風の局面が続いたんですね。(会場 笑) ずっと、向かい風の局面だったんですね。今年度は、RI 本部が、ファシリテーターという言葉を使い、これから研修よりも、ファシリテーターを、そちらのほうに重きを置くようになって、すごく追い風を感じるんですね。向かい風から急に追い風になりましたんで、追い風のこの勢いを大事に、ファシリテーションをしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

B チームサブリーダー 大野 雅章 (千葉 RC)

今回は休み

ここまでのところ、御質問あるでしょうか。

よろしいでしょうか。10 分ほど休憩とします。

(10 分休憩)



山本 要子 (千葉港 RC)

みなさん、こんにちは。港のヨーコでございます。RLI というのに、参加させて頂いたのは、意味もわからずに、青木さんが、「絶対良いから。」ということで、参加させて頂いて、朝早くから、夜遅くまでですね、普通の学校よりキツイなあ。みたいな感じでねえ。(会場 笑) はなしました。でも、RLI に入って一番良かったのは、矢代さんの御紹介で、ロータリーの会員が一人、増えました。(会場 拍手 拍手) なによりでございます。(会場 笑) ですので、これからも、ファシリテーターやるのは、好きじゃないんですがね、ですので、縁の下の力持ちで、そちらを、担当させて頂きたいとおもっているんですが、せっかくできた人脈ですので、できるだけ参加して、皆さんと楽しみたいなど、思っております。宜しくお願い致します。



清田 浩義 (千葉 RC)

これで1分です。



山本 要子 (千葉港 RC)

1分ですか。こんなにしゃべったのに。では仕事。

仕事は、不動産の事をやっています、家を買うのはだいたい30代40代で買うのは普通なので、家を買ったら、次は収益物件を、目指して、いって頂くと。それで老後は、年金と収益物件で、豊かに暮らすと。ということですね。若い人たちに、そういう事で提案していきたいなど、思っています。ほぼ一元のお客様、考えてなくて、だいたい紹介、紹介できていて、それがまた楽しいんですね。紹介ですと、とんでもない、福岡のほうの土地を売ったりとか、浜松の土地を売ったりとか、京都の中古住宅をやったり、それはそれで、結構楽しいなあ、みたいな感じで、だいたい、美容院いっても、どこに行っても、いつも楽しそうですね。と言われるんですね。本当にもう、年をとるって、いいなあ。みたいな。(会場 笑) 楽しんでます。昨日は、誕生日だったんですが、(会場 拍手 拍手) ありがとうございます。すごい仲間が集まってくれて、ウチの庭でバーベキューやったんですが、ちょっと、言いたくないのですが、71というローソクがあって、これ持ってきているんですよ。これ、面白いね。と言ったんですが、ちょっと、やだな。ということで、逆にしたら、いいじゃん。そうよね。間違っているよね。71は。みたいな。(会場 大笑) 17で。プラス2とういこと。もうそろそろよろしいでしょうか。ありがとうございます。(会場 拍手 拍手)



江上 俊彦 (千葉東 RC)

みなさん、こんにちは。千葉東 RC の江上と申します。ロータリー歴は、今年で7年、来年で8年目になります。私がロータリーに入ったのは、いつも言っているのですが、還暦になったときに、人生の節目として、なにかにチャレンジしたいと、いうことで、ロータリーに入会しました。今、丁度8年目という



ことで、早いなあと思いつつながらですね、あっという間に8年経ってしまいました。私がロータリーに入って、ロータリーって、ウチのクラブは月曜日の夜例会で、6時半から、点鐘して、例会やっていて、夜だから、参加できるかなと。いうことで、毎週月曜日、例会だけ出てきました。例会だけ出て、他の日は、仕事があって、なかなか参加出来なくて、ロータリーって、例会だけ出ていけばよいのかなと、思いつつながら、面白くもなく、例会に参加し続けていたという状態で、3年前に、会長をやってくれと言われて、例会しか出ていない、そういった会長になろうとか、幹事だとか、一切考えたことがなかったので、「えっ」て、最初は断っていたんですが、だんだん断りきれなくなってきましたね、幹事も経験していなくて、いきなり会長ということで、会長になって、第3グループ、他の7クラブ、全部で第3グループは7クラブありますが、他の会長幹事の方達と、接するようになって、他のクラブの方とお付き合いするようになって、「あら、ロータリーって、ちょっとおもしろいかな。」と。自クラブの例会だけ出てた人間が、ちょっと刺激を受けて、ロータリーが、面白くなってきたと、その時に、RLIに、清田さんが、ガバナー補佐だったんですが、RLIに参加して、松岡さんたちと一緒に12期卒業で、このまんま、ファシリテーターも経験しようかなと。(会場 笑) そのまんま12期を卒業して、今、去年ファシリテーター。入れさせてもらって、今年また、参加していると。というような状況です。何故か、一昨年会長やって、去年、急にエレクトが、辞めちゃってですね、2年続けて会長をやっていて、(会場 笑) コロナもあったし、会長のときの、活動というのは、コロナでリアルではない活動が多かったのが、昨年やらしてもらって、2年やって、面白かったかなと。だんだん、ロータリーが、面白くなってきたという状況です。以上です。



#### 高山 義則 (大網 RC)

皆さんこんにちは。大網 RC の高山 義則と申します。よろしくお願ひいたします。私も来る予定ではなかったのですが、(会場 大笑) 誰も、ウチのクラブで、来る人がいなかったから、やはり一人くらいやらなくちゃまずいだろうと、いつも私、犠牲的な性分(会場 大笑)で、いつているわけですが、私は、婿なんです、「誰も婿が来ない。」「じゃあ、かわいそうだと。」ということで、婿になりました。旧姓はこれじゃあ、ないんです。深い山なんです、同じ山ですから、ウチのおふくろは青森の出身で、山口といいますけれども、青森出身ですから、派手はきらいで。ウチの女房も、私と結婚した当初は、いまも入っていますけれども、一緒に風呂に入ってますけれども。いままで見た男性で、一番肌が白いと。本当はそんなんじゃないですけども。そういうようなことを、言ってませんでしたね。(会場 大笑) そんなわけで、私、ロータリーのほうはですね、もともとは県の職員だったんです。ですから、ロータリーに入る意思はなかったんですが、どういうわけか、定年になる前に、58で辞めまして、ちょうど59のときに、町会議員の選挙がありまして、10年前から、定年後は





何するか考えてまして、ボランティアしようと。そんなようなことを、考えてましたので。ボランティア、一人でやっても、一人前にしかならぬけれども、議員だったら、何人か分の仕事ができるかなと。そういうことで、目指したのですが、見事に落ちまして。部落の人のいいぐさが、いいですよ。「よそ者がなんで、でているんだと。」(会場 大笑) よそ者なんですよ。だから、田舎のひとというのは、だめですよ。よそのものね。一番大事なのは、よそのものとか、ばかものとか、わかもの。この3本が、一番大事なんです。なにかを変えるのには、この「さん者」がいないと、変えられない。いなかのほうに行けば行くほど、年寄りが、権限を持っていますので、年寄りの発言が強いわけです。それを、打ち砕くには、この「さん者」がいないと、駄目なんです。ですから、私のような者が、部落に入ってなにかをしなくちゃいけないのです。ということで、ロータリーの話は、まだなんです、県の職員辞めてから、今いる会社が、ちょっとウチに来ないか。ということで、それで千葉セントラルという会社に入ったわけなんです。そのおかげでロータリーに入ることもできました。ですから、今の会社にも感謝しておりますけども、もうボチボチ辞めさせてくれなかなと。なかなかやめさせてくれなくて、大変困っています。私も、ロータリーに入ってですね、ウチのロータリーは、ちょっと長くなりますが、「楽しくなければロータリーではない。」と、そういう考え方が多くて、ゴルフとか酒とか、何かする。そういうのが、大好きなんですよ。ただ、勉強するのが嫌いなんですよ。だから、入った人に対する講習もやっていないんです。これじゃまずいなと。それで、最近3人くらい入ったのですが、一切講習もやっていない。教えてない。ロータリーとは、どういうものか。何も知らないと思います。それでは、まずいなと。ですから、私がここで、勉強して、ちょっと、自分のなかだけで、やろうと。外まで出て行って、なにか、やるのではなくて、私は、クラブの中だけで、やるつもりで来ましたので、今後、よろしくどうぞ、お願い致します。



#### 小林 信雄 (東金 RC)

改めて、自己紹介をさせていただきます。私は東金 RC 所属の小林信雄と申します。入会歴は21年目でございます。何も勉強していないので、ちっともわからないし、(会場 笑) 人間が愚鈍な人間なものですから、あまり気が付くことが少なく、皆さんに迷惑ばかりかけております。RLIに入りまして、非常に、楽しいというか、心が明るくなる。そういうことを、覚えました。で、勉強することとは、そういうことかなと。本当は、勉強することが、商売のはずなんです、で、最初は、大学出ましてですね、大学の事務職員、教務職員をやっていました。「お前バカだから、何かいって勉強してこい。大学でお金だすよ。」とういことで、そのときに、ソルトレークシティ オブ ユダ グラデュエート スクール大学院ですけど、そこへ、派遣留学生として、派遣されました。大学。行ってみたら、大学、何もわからない。モルモン教徒の皆様、いまして



ですね、そこで、誘ってくれたり、なんかしましたけれど、1年経って、お前バカだから、ロサンゼルス为学校へ行つて、改めて、英語の勉強をしてこなければ、なりません。と言われて、ロサンゼルスに行きまして、英語の、学校に、は行ってました。大学の様子が変わりました。お前に、送る金が、別のほうに行くので、返つてこいと。(会場 大笑) ということで、ラスベガスにいつてですね、遊んでばかり、いたものですから、返つてきて、なにをいうかなとおもつて、帰つてきました。いきなり、外国文献研究ということで、渡されまして、ですね、教室にいつてみました。留学生ばかり歩いている。逆にいうと、留学生に英語を教えるのです。私は、高校は農業高校なんですね。勉強なんてしないで畑の仕事ばかりやらされた。ものですから。まあ、しがたがないから、それやつていまして、大学院で、博士課程の教授まで勤めて、学術会議のほうにも、でましたけれども、学会の会長のとほきに。どうもどこに行つても馴染まないですね。ここのロータリーに入るにあつてはですね、商工会議所の会頭が、あるとき、ちょっと会つてみないかと。いう人がいるからと。というようなことで、その人がロータリーの会長だつたものですから、はいることになりました。理由はなにかと言いますと、米山奨学生の面倒をみてくれと。そういうことでした。これはこれでまた、面白いですね。留学生ばかり。近隣の学校ばかりですね。韓国とか！台湾、香港。台湾の留学生いいですね。今でも、嵐、嵐がきた。地震がきた。すぐに電話かけてきてくれます。大変思い出が深いんでしょう。そういう経験がありましてですね、高山さんじゃないですけど、他所者です。福島県の、白川市ということです。カタカナで、ビヤッコイという。引いてみてください。天然記念物かなにか、これは、私の郷土の土地です。役所のほうから電話がありまして、お前のところを、整備するから、ちょっと、その、許可をしてくれと。という手紙を来ました。普通は遺産を相続して長兄にいくのですが、それが共同所有のものですから、それが残つちやつたんですね。そういうことで、そういう連絡が、あつたりして。案外年をとつても、ロータリー、RLI、自分の理解した本質をね、学ぶとか、書いてありましたね。これは、ロータリーについて、ロータリーの本質を、学ぶという、よりも、ファシリテーションガイドブックを頂きました。これを見ていてですね、ワクワクしてしまつまして。人間というものは、こういうものなのか。最初に人というものはですね、人から評価されること前提として、活動しなきゃ。そういうことが、書いてあります。私もできれば、人から評価されたいなと(会場 笑) なかなかそこまで、いきません。ロータリーは、楽しく、先程の高山さんじゃないけれども、いわく人を磨く、心を磨く、明るい心で、いく。根性が悪くて、癩にさわるのが、なかにはいるのですね。しかしこれはこれでですね、戦う。それで、警察の役員なんかしてますと、癩にさわると、やつつけてやろうかと思うんだけど、それは、無理だなあと思うんですね。そういうときには、

会場より 時間です。



時間を長く、次いってですね、そして 80 年、最近 100 年位生きて敵をとってやろうと思うと、だいたい心が収まります。静かにですね、RLI で皆さん、勉強すると、あとあとに、その非常に、良いイメージというか、その充実感というか、そういうものが、フワフワと、あとから、でてきますのでですね、静かに時間をかけて勉強するほうが、私には合っていると。そういうふうに思っています。私も 90 過ぎていますから、もう爺ちゃんですね、本当は杖をつけて歩いてる口なんですけど、どういうわけか、ウチのご先祖さんが、働き過ぎで、見渡す限り、背高泡立草の草が生えている。これを退治しながら、ロータリーを考えながらですね、何か人の役に立ちたいなど。もちろん、地域社会、自分の住んでいるところ。お寺のお役にたつ。神社のお役にたつ。これもいいですね。しかし、ロータリーの基本は、やはり、国際奉仕です。財団の、アレをみますと、7つの重点分野。

はい。そろそろ時間です。ありがとうございます。

長くなりました。ありがとうございました。(会場 拍手 拍手)



松本 俊英 (千葉中央 RC)

皆さん、こんにちは。千葉中央 RC の松本です。ロータリー歴は 20 年目に入ったと思います。ちょうど今、会長、2 回目の会長を仰せつかっておりまして、矢野さんが、幹事なんですよ。(会場 笑) 皆さんご存知のように、矢野さん、滅茶苦茶クセのある人なんで、私が矢野さんと一緒に手を組んだのは、RLI が一緒だったんですね。本当は、矢野さん、私と同じ 10 期だったんですが、卒後コースか、DL 養成が出れなかったんで、12 期になっていますが。矢野さんが、今 75 で、ウチのクラブが 46 年目なので、4 年後の 50 周年までに会長をやって頂こうと。というのと、矢野さんの暴走を止められるのは、私しかいません。(会場 笑) ということで、今、会長です。ちょうど私、曹洞宗、千葉県、うちお寺なんで、千葉県の 328 ケ寺を預かる、所長を仰せつかっております。こちらは 4 年任期なんですね。ロータリーは、1 年。昨年 12 月 11 日からで、なにもない日というのがね、この 10 カ月で二日くらいしかありませんでした。月水金は、宗務所。市原にあるんですね。お坊さんが亡くなると、所長、弔辞というのを述べないといけない。住職になる式の場合は、祝辞というのを、先月は、3 件あったんですよ。先月本当に忙しい 1 週間で、母親が、96 で亡くなりまして、10 月 6 日に、お寺の本堂で葬儀を、その 1 週間後には、ウチの次男の仏前結婚式が、お寺で、1 週間のうちの、慶弔 2 回、その間で、本寺の佐倉のお寺のご



住職の本葬儀で弔辞を言ってといわれてね、本当に忙しい日を過ごしております。このRLI。矢野さんは、本当は、このRLIに参加していなかったら、いまごろ多分、辞めてると思います。それぐらい、あの方は、変わりました。ぜひとも、このRLIで、いろんなクラブの人と話を聞いて、また、自分も話すというのは、勉強になるんで、これからも、土曜日、意外と法事が入ってしまったたり、するんですが、極力入れないようにしております。皆さんと一緒にがんばりたいといきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ぴったり3分でした。(会場 おお！！ 歓声) ありがとうございます。



富 一美 (成田空港南 RC)

皆様こんにちは。成田空港南 RC アンド 千葉コネクト衛星クラブ 二つのクラブに所属しております。私の立ち位置でございますが、むかしむかしあるところに、という浦島太郎みたいな、80を越えました。先程、清田さんのほうからお話もありましたけれども、私が第1期生です。それで実はですね、私は、市原 RC の白鳥 PDG からお話を頂きまして、RLI を立ち上げるにあたって、協力してくれということで、チャーターメンバーになっているわけですが、そのなかには、海寶さんが、います。中村俊人さんとか。突然、お亡くなりになってしまいました。最近さみしい思いをしております。それで、私、ロータリーとしましてですね、歳は67なんですが、ロータリー歴は27年です。来年28年になります。そもそも、このRLI、発足当時はですね、発足して、できた前、その5年くらい、実は準備段階がありまして、「森を歩く会」というものがありました。プラス5年くらいやっていました。ですから、最初はですね、パストガバナーのなかからは、向かい風の御意見が多数ありましてですね、RLIの押しつけではないかとか。いろいろなことがございました。それでも、いま考えてみると、こうしてRLIが、これだけ隆盛を誇ってですね、皆さんが重きを置いていただいているということは、私にとっては大変ありがたく、思っています。小林先生が私の時間をだいぶとってしまったので、(会場 笑) 大学教授ですからね、いずれにしましても、細かいことはわかりませんが、私たちの、スタート時からみると、今はテキストみたりだとか、拝見させて頂きましたけれども、随分、進展があつて、変わっているようです。ですから、私は、浦島太郎で、ございますので、改めて、今、やって、いらっしゃる方々に、胸をお借りしながらですね、協力できるところは、協力させて頂きたいなど。清田さんに、声をかけて頂き、私、逃げられないんです。(会場 笑) 私、地区補助金プロジェクト委員長を仰せつかっている関係で、これから、2月から、5月くらいまでは、補助金の申請ですとか、いろいろ統計、仕事をやったりとか、ちょうど、忙しい過渡期に、繁忙期になりますので、参加できるときだけ、参加させていただこうかなと、そんなふうに、思っております。RLIは、やっぱり、





秘訣というか、ディスカッションリーダーというか、これ、ファシリテーターというんですね、ファシリテーターそのものが、楽しくないと、ディスカッションやっている人も、楽しくありませんので、そのへんに大きなポイントというか、秘訣じゃないかなと、思っています。やり方は、人それぞれあると思うのですが、今後とも、皆さんの、親しくして頂ければ、やっていきたいと思しますので、どうぞ、よろしくお願い致します。



吉田 理愛（勝浦 RC）

みなさん、こんにちは。吉田理愛です。所属は勝浦 RC です。私はロータリーに入会したのは、2013年の4月なんで、10年経って、11年目に入ったところなんです。この RLI に、初めて参加したのは、パート3からで、それが2014年で、パート1・2受けたのが、2015年。そこからブランクがあいて、DL養成コースとかいろいろあって、11期生ということになりました。古いテキスト。今の富さんの話にもあったのですが、テキスト3冊もっているんですが、どんどん変わっていくなあと、というのが、あります。DL養成コースとか受けたときは、コロナの3年間なので、ほとんど ZOOM でやって、DL デビューも、ZOOM で、ZOOM デビューだったので、去年リアルで、ディスカッションリーダーが、できるようになって、やっぱり絶対にリアルのほうが、いいなと、つくづく感じました。ZOOM のファシリテーターのときに、みんなが黙ってしまったら、「どうしよう。」となっちゃって、(会場 笑) リアルな会場でやると、「わかんないな。」というときは、後ろの実行委員の人たちに、ポンポンと話がふれますので、すごく楽しくやれるなと、思います。RLI、自分がわからないところは、ついでに聞いちゃえという具合に、やらせて頂いているので、他のクラブの人たちと、話ができるのが、参考になって、助かっております。短いですが、よろしいですか。よろしくお願い致します。



石田 亨（木更津東 RC）

皆さんこんにちは。木更津東 RC の石田といいます。ロータリー歴は、丸7年くらい経ちました。この RLI に、参加するきっかけというのは、松岡さんが先に入っていて、自分が幹事をやる前に、みなさんもそうでしょうが、ロータリーの事が、全然わからないで、幹事をやっても、やっぱりなかなか、厳しいかなと。というところがありまして、自分も、ちょっと勉強しないとならないなあと、というのがあったんで、松岡さんの話を、そのまま受けて、来たという形で、その結果というか、やはりクラブにいても、毎回食事して、友達と話をして、ただ時間が過ぎてというなかでは、やはり刺激というのが、あまりなくて、そういうなかで、やはり他のクラブの方の話しというのは、皆さんのいうように、すごく刺激になります。もうひとつ、幹事になって5グルー





プの他のクラブにも行く機会があって、そうするとやはり、他のクラブの例会は、こんなかんじなんだと、ということを経験すると、やはり、自分のクラブだけでは、せっかくロータリークラブに入ったのに、もったいないなど、思って、ますます、感じまして、そういう流れで、きてます。12期なんで、先程の矢野さんと一緒です。いつも矢野さんと一緒に、(会場 笑) 大変なんですけど、なんとかついていって、今回は、違う部屋ですが、(会場 笑) 握手されましたけれども、本当にずっと、戦友みたいで、うれしいです。で、私は今年度、RYLA のほうも、委員になりました、来年の2月に鴨川で、RYLA のほうを、行きます。そんなもんで、パート1がちょっと、かぶっちゃうんで、前段階で、出られません。すみません。出られるときは、一生懸命ですんで、また、みなさんも、クラブに返って、RYLA のほう、また、参加のほう、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。ありがとうございます。



矢代 秀明 (浦安ベイ RC)

浦安ベイ RC から来ました矢代と申します。よろしくお願いいたします。入会歴は7年くらいだと思います。どちらかとゆうと私は幽霊会員みたいな感じです。あまり実はロータリークラブの面白さを全くわからずに、冷たい先輩ばかりですから。なにやっているんだ。こいつらと、思いながらですね。だんだん行かなくなっていくんですから。ちょうど2年前に、若手の一番の私としては、会長をやらなくてはいけなくなって、会長になることになりました。ここから、だんだんおかしな話になってきまして、富さんという方がいるのですが、(会場 笑) グローバル奨学金を、なにかやってくれないかと。グローバル奨学金とは、なによ。知らないし。そんなもの。そこから、勉強をして、なんとか、送り出しは出来なかったのですが、その送り出す過程を勉強させて頂きました。もう一人、悪い人がいるんですよ。バッドで寝ていたら、電話がかかってきて、会員増強地区委員長にならないかと。というひとが、こちらは、吉田さんなんですけど、(会場 笑) 忙しくないですよ。と言われて、大丈夫、全然、忙しくないよ。なにを言っているんですが、半年前から毎週土曜日とられるわけですよ。ずっと、勉強していかなくては、ならないんです。でも、そこから地区って、面白いなあという感覚。なりましてですね。いろんな人と出会えてです、いろんなロータリーの方の、話を聞いてですね、楽しくなりましてですね、それで、ウチのクラブの2名が、RLI に参加しておりましてですね、矢代さん、ちょっと行ってみたら、という話でですね、今回、パートI が体調不良で参加できなかったんですね。パート2 から受け始めて、ずっと座って、人の話を聞いているのだ、大嫌いなんです。年がら年中ですし、つまらないです。で、対面形式のディスカッションが、すごく面白くて、これは、ちょっと真面目に受けなくてはいけないなと思ってですね、パート1 を周藤さんに。そう。周藤さんも悪い人で。周藤さんも。悪い。(会場 笑) 同期会長なんですけど、RLI に、絶対に来てね。と、と言われて、断れないですから。一切。はい。しかないですから、ロータリーは。あの人も、悪いんですよ。で、これは、絶対に、今年度



で卒業したい。という気持ちがあつて、静岡と、山梨県にパート1を、オンラインで、受けましてですね、なんとか、3回目受けて、なんとか、卒業できたわけです。1年で、なんとか。気の短い男ですから、なんとか、終わらせてくれと。せっかくうけたのですから、早く終わらせたい。ということで、3分経ちましたので、そろそろ終わりにします。どうも、ありがとうございました。



荒井 光江（市川東 RC）

皆様、こんにちは。荒井光江と申します。所属は市川東 RC です。入会歴は、8年目になります。入会したきっかけは、ロータリークラブの方々が集まってきました、荒井さん。今度ゴルフやらない。いいですね。参加させてください。と、お伝えしたら、これは、ロータリークラブのコンペだから、入会しないとできないんだよ。と言われて、それじゃあ、わかりました。と。いって、入会をさせて頂いたのが、きっかけでございます。いろいろクラブの委員会の仕事、とか活動をやらせて頂いて、最近では地区の、委員会の活動もさせて頂いております。今、財団資金管理寄付推進委員会の委員長を仰せつかっております。常日頃、富委員長には、御指導を、頂いておりますが、感謝に、たえないと、いつも思っております。先程も、手を合わせたところでございます。感謝をしまして。財団の仕事も活動も、けっこう大変、奥が深く、大変なんです、RLIのセミナーを出させて頂いて、より一層、いろんな分野、というものを、知ることができて、また、いろんな方達の、クラブの御意見、ということが聞くことができたということが、素晴らしい吸収というか、勉強になりました。いろんな方のお知り合いにも、そこから、どんどん、どんどん、広がって行って、ロータリーが、とても、楽しいものに、思えてきたところでございます。まだまだ、入会して8年目なので、皆様先輩の方々、沢山、いらっしゃるので、御指導のほうを頂いて、頑張っていきたいと思ひますし、RLIの活動に関しても、がんばっていきたいと思ひますので、皆様、是非、御指導のほう、よろしくお願ひいたします。



金坂 一郎（茂原 RC）

皆さん。改めまして、茂原 RC の金坂と申します。金坂一郎です。名前簡単なんで、覚えて頂けると思うのですが、私、入会が、2011年、1月になります。震災の年です。その年に入りまして、何を間違ったのか、2012年に次の年に、副幹事になって、これはまずいなということで、2013年に、たしかRLIのほうに参加させて頂いたと思ひます。そのときは、この雰囲気というものが、すごく楽しくて、自分、吸収してたつもりで、次の年、幹事をやらせて頂きました。また、去年、案内が来まして、卒後コースだけ、受けていなかったんですが、卒後コース受けなくちゃいけないんだよと、周りに言われて、卒後コース行っ



たら、やっぱり楽しいんだなと。思いまして、今回、FTの養成、DL養成コースの、第1回目、第2回目出ていないのですが、第3回目、ちょっと、この楽しさを味わいたくて、参加をさせて頂きました。これも、今年会長エレクトになりまして、来年、会長ということで、もう一度お勉強しなおしということで、みなさん意見をいろいろ聞きながら、自分の会長年度に活かしたいなと思って、参加させて頂いたのですが、どれだけ出られるか、わからないのですが、一生懸命、ファシリテーター、として、茂原RCクラブを、今年、五か年計画ということで、RLIの卒業生5名、ファシリテーター3名出すということで、それを、活動計画書のほうに、バッチし、(会場 拍手 拍手) 茂原RC、私しか、いないんですね。いまのところ。みんな、辞めてしまいました。これからも、推進しなくては、いけないということで、自分からもう一度、勉強し直して、茂原RC、来年は、3名4名5名と、参加させたいと、思いますので、よろしくお願いいたします。



#### RLI推進委員会 神崎 誠 (成田RC)

成田RCの神崎です。入会歴は、19年、RLIは、DL、FTは、山本さんと一緒に、第6期生です。ということで、まあ、無理なく、休まず、用事があるときは、しょうがないのですが、なんとか、だんだん、ここまで来たので、だいぶ長くやったなどは、思っておりますが、富さんの顔を見ると、まだ、やるのかな、みたいな。(会場 笑) 歳は、65なので、年金あげますよ。という通知もきましたので、歳をとって、どちらかという、年寄りのほうに入ってきたので。仕事は、成田空港ができるにあたって、警備会社を作りまして、ちょっと、変わった警備会社なんですけどね、空港に特化してますので、工事現場はあまりやらない。交通誘導もあまりやらない。従業員、の出入管理、商品の搬入、空港って、一線を引くと外国になってしまいますから、急にきびしくなるので、そのへんの出入りの管理を、メインにやっております。ということで、昔は、空港はいるときに、免許書みせてくれとか、カバンを見せてくれとか、いろんな話があったのですが、あれをやっていた、悪い経験がウチなんです。(会場 大笑) で、あれがなくなって、会社がおかしくなっちゃうんじゃないのと、というときに、サンビロードするということで、第3ターミナル、の施設と、従業員と、というところを、やるようになりました。なんとか、いまいるわけですが、女性も80人ぐらいいますんで、女性を使わないと、人手不足で、到底手の打ちようがないと。その辺をどう、環境を改善してね、そして働けるようになるか。一生懸命、会社としては、やっているところです。RLIについては、本当に、ロータリーは、会ったときから、平等、なんだよと。という前提で、入会させて頂いているし、そうして頂いているので、今後とも、知り合いを広めるということで、やっていければなど、思っておりますので、今後とも、地区補助金も、富さんの下で、よろしくお願いいたします。



#### 高宮 幸子（船橋西 RC）

皆さんこんにちは。初参加ということで、船橋西 RC から来ました、高宮幸子と申します。入会歴は 18 年になります。ただ、私どものクラブ、私が入会したときは、50 名近い、会員がおりまして、重鎮の方々、70 代 80 代、蹴とばしたら怒られるというような、すごい方々が、勢ぞろい、されてまして、男性のパワーがすごかったので、女性は、わたし、2 番目。入会で二番目の者なんです、一番最初の会長になりましたのが、私一年前なんです。その方も、会長になりましたのが、15 年ですかね。そして、私その次に、やりました、16 年。ですから、女性は、今現在 4 名おりますけれども、とにかく男性のパワーと、先輩の方々の、意向が強くて、ちょっと、静かにしていたのですが、ただ、私がちょっと会長になる前に、クラブのほうからですね、RLI のセミナーを受けてください。ということで、勉強しようかなということで、123 と、受けたのを、幹事さん、会長さん、副幹事、幹事、それから会長、になるところですね。そこで一緒に、勉強をさせてもらったのが、きっかけです。今回、突然ですね、参りましたのはですね、10 月 3 日に情報研修会というものが、第 2790 地区で行われまして、そのときに、清田委員長と、石田様が、すごく RLI に、関して、なにかウチの第 2790 地区は成績が悪い、入会者がね。という、受講者がいないというので、半分、お仕置きの、（会場 笑）すごく熱心に、応募させて頂きました。私のクラブでは、私が、一人だけオンラインで卒業したものですから、クラブで、いま一番、悩んでおりますのが、会員増強、今、24 名。それで 10 月 29 日に木村建設の木村モトハルさんが、85 歳でお亡くなりになって、また、23 名。ですから会員増強、というのが大問題になっております。それで、少し勉強してこなくちゃということで、今回だけの勉強の参加を、できてよろしいのかなと思ひまして、吉田さんに、清田さんのところに電話しましたら、不在で、月曜日にならないと連絡が取れないということで、すみません。突然お電話しまして。今日は、無理に、強引に、参加させて、お勉強させていただこうと思って来ておりますので、これからも、（会場 大笑）これからじゃないですね。今日は、飛び入りですので、どうぞ、よろしく願いいたします。



#### RLI 推進委員会 委員長 清田 浩義（千葉 RC）

だいたい、これで終わりといいながら、だいたい来ちゃうのが、この RLI です。（会場 笑）本当に皆さん、どうもありがとうございました。それぞれ、自己紹介頂いて、一人一人のお話を聞くと、知らない事、要子さんが、17 歳だったことも知りませんでしたし、（会場 笑）それから、高山さんが、犠牲的精神を持ちながら、人生を歩んでいらっしゃるのも、聞きましたし、それぞれ皆さんの、矢野さんの天敵の松本さんも、いらっしゃるんですね、様々な、境遇、プロフィールをお持ちの皆さんが集まり、まさに、本当に、いろんな方がいる。これがロータリーの醍醐味かなというふうにおもいます。合わせて、RLI を考





えると、本当にいろんな方がいる、いろんな方の、そんな話を、どういうふう  
に、うまく吸い上げて、「そういうことなのか。」と、腑に落ちるように、すす  
めていくのが、ファシリテーターなんだろうと、思うところであります。残り  
30分あるので、ちょっと、皆さんのお話を頭のなかに入れて頂きながらで  
すね、今日、皆さんにお配りをした、初めて御覧になる方もいらっしゃるかも  
しれません。僕は、これ、本当にバイブルだと、すごく思います。後ほど、  
ご案内あるかもしれませんが、これ監修された富永さんという方はですね、京  
大を卒業して、今は、福井大学の准教授をやられていて、発創デザイン研究室  
というところの、代表です。何人か、RLI 推進委員の皆さんが、お話を聞いた  
のですが、ファシリテーションは、何なのか。というのを、本当にうまく、我々  
に伝えて頂けていてですね、その方が、監修なので、是非、皆さんも、何回も  
何回も読んで、ファシリテーションは、何なのか。というのを、富永さんの話で、  
こないだオンラインで、話しをしたときに、ご自身は、小さいとき、あまり人  
が好きではなくて、話すのも、好きじゃなくて、そんな生い立ちを過ごしなが  
ら、どういうわけか、大学を卒業して、ファシリテーションの研究を始められ  
ました。先程、小林先生の話もありましたが、そうかもしれませんが、人の話  
し合いというのは、結構、その話し合いから、人生が変わったりですね、とん  
でもないことになってしまったり、いろいろあるじゃないですか。富永先生は、  
話し合いが社会を変える。とあってですね、あながち、嘘じゃないなど、思っ  
たんですね。だから、ある意味、RLI は、そして皆さん、そして私も、ファシ  
リテーターという立場になったときに、その場でどういう風な風を吹かせると、  
どんなふうに、先程、何人かの方、松本さんの話じゃないけれど、矢野さんは  
RLI に来なければ、やめちゃった。というお話もあって、まさにそういう場に、  
遭遇したことで、ちょっと大げさにいうと、自分の人生が変わったと。いって  
も過言ではないかもしれないし。RLI は、いろいろ皆さん、その、ロータリー  
モーメントということで、私自身もそういう意味では、この RLI の出会いが、  
いろんな自分のロータリーライフを変えていることは、間違いがないと思っ  
ます。

そこで、最後に、是非、一緒に、読んでみたいと思います。

このファシリテーターガイドブックの 31 頁。開いて頂いて、ファシリテーター  
としての「あり方」とそれを支える「マインド」というところを、皆さんと  
一緒に読んでみたいと思います。このファシリテーターガイドブックができる  
前までは推進委員会として、DL のスキルを上げよう。DL のスキルをみんなで、  
上げていきましょう。と、そんなふうに、お話しをしながら、どっちかとい  
うと、スキルというか、スキルアップのための、トレーニングみたいなことを、  
やって、来てたんですが、改めて僕はこの、富永先生の話も含めてね、ファシ  
リテーターとしてのあり方、それを支えるマインド。基本的には、ファシリ  
テーターマインドとは、何なのかというのが、そもそも、そこをしっかりと、理解





するというか、自分の腹に落とすというのが、入り口なんだろうと思いますね。スキルというのは、技術ですから、だけど、技術の下支えになる、考え方が、しっかりしていれば、技術、スキルも伸びていくし、下支えになる、ものの考え方がしっかりしていないと、ただ、技術、技術、といってもですね、技術の基になる考え方というのが、大事だというのが、この頁です。読んでみるとね、そうかなと、思うんですね。

まず1、「どうするか」より、大切な「どうあるか」ちょっと読んでみますね。ファシリテーションとは、「促進する」ものであり、「円滑にする」ものです。それはつまり参加者が持っている能力が発揮されやすい環境を創ることであり、ファシリテーターが、参加者に対して、ある方法を用いて直接的な影響力を行使する、あるいは、特定の行動をさせるというものでは、ありません。ですから、やっぱり参加者に対して、どういうふうにしてもらおう。と、こちらから、働きかける。というものではなく、どうする。というのではなくて、自分がどうあるか。という、そういうものだ。ですね。ファシリテーターは、自分がなにをするか。の前に、自分は、どうあるか。に意識をむける必要があります。ずっと読んでみると、なんとなく、こうやってほしい。と思うんですね。私が、私の様子を見て、皆様がなにかを感じてますよね。私が高圧的な雰囲気を出すと、あの人は高圧的だと思うんです。私がどうであるかが、櫻井さん。どう、思うかという話ですよ。ですから、大事なことは自分が、どうあるのか。という、そこが、自分自身を見つめるということになるものかもしれません。参加者がファシリテーターのあり方から、真実を感じ取る。積極的な参加への意欲を挫かれます。ですから、ファシリテーターが、どういうあり方によって、一緒に参加しようと思えば、まあ、話を辞めちゃおうかなと。思ったりもする。ということです。ですから、自分自身がどう考えているか。どういう気持ちでいるかが、大事だということ。

二番目。自分が何かを生み出すのではなく、何かが生まれる場を創る。そうしてもディスカッションリーダーになると、時間の使い方を含め、参加者が何も話をしてくれないと、一生懸命自分が話し始めちゃって、何かを、しなきゃ、しなきゃというふうな場を、つくってしまうと、そこに出来上がる場は、決して参加者が、何かを気付く場ではなくなる。ということですね。ここで言っているのは、たしかに難しい話だけれども、基本的な考え方を、皆さん、そういう考え方をしましょう。

次の32頁の途中から。多様な人たちが伸びやかに思考し、意見を交換するなかで、共に答えを探し求めることができる環境を整えることに意識を向けます。今日も、本当に色々な考えの方が集まっていて、そこに意見を交換する場のなかで、ともに答えを探し求めることができる環境をつくる。私が、司会というか、進行をさせていただいたときに、ここで立ってお話をして頂く皆さんが、自然に話ができて、ロータリーでは、僕はそう思うのですが、ファイヤーサイトミーティングって、まさに、この辺で火がメラメラと静かに



燃えているところに、みんなが集まってですね、なんとなくホッとしないですか。ホッとしながら話し合うときに、その人の本音なり、その人が、話している人が、話していることを、なにか、我が事のように、行ける場。まさに、ファイヤーサイトミーティングだとするとですね、ファシリテーターは、もしかしたら、その、ファイヤーサイトなのかもしれないなあ。と、そんな気がします。

次3番。本番での自在の即興を可能にするためにこそ、準備する。これもなかなか、けなし名言だと思うのですが、即興、まあ、アドリブですよ。いろいろなアドリブができるということは、アドリブができるための、準備がどこかにあって、例えばですよ、松本さんの、仕事は、こういうお仕事だとか、吉田さんのお仕事、こういうことだと、私のなかに、情報があるんですね。言ってみれば、いじることもできれば、落とすこともできれば、その場の道筋を作る、ことができる。事前の準備というのは、自在の即興を可能にするために、こそ、準備が必要だという話ですね。とはいってもね、そんなに、高宮さん、無理して勉強してこなくても、遊びに来てくれればいいんですから。とことん考え抜いたからこそ、自信をもって、今、ここに起きていることに向き合い、即興で展開し、そのときその場に集まったメンバーだからこそ、生み出せる、気付きにたどりつく。たしかに、そう確かにそうだなと思ったりもしますよね、

4番、自分の欲求の在り方が、場の雰囲気反映される。これは、やっぱりそうですね。自分が、そわそわして、早く時間だから、終わらないかと、思ったりすると、皆さんもそう感じちゃう。そういうものですよ。だから、そこを、どういうふうに、自分をコントロールできるか。という話なんですけど、そんなにうまくはできませんけれども、だけど、そういうものだと、頭の中で少し、理解できていけば、何かのタイミングのときに、そういう自分になれるかもしれませ。自分の欲求の在り方が、場の雰囲気反映される。確かに自分の欲求の在り方が、早くビール飲みたいぞと、思っていると、皆さんも移るようなものですよ。ファシリテーターが、失敗を恐れず、自分をオープンにして、伸びやかに進行するならば、参加者もまた、自分の意見を率直に発言し、想像的に思考する場になるでしょう。確かにそうですね。ですから、どういう場を創るか。というところが、大事だと。いうことになると思います。

次の5番。優れた存在であるより、安心できる存在であることを目指す。

安心できる存在。って、なんでしょう。自分を立派に大きく見せようとするのではなく、失敗を隠そうとするのでもなく、不完全な自分をオープンにしつつ、話し合いの目的と、参加者の思考に寄り添う姿勢を見せることで、参加者を、安心させる存在になることができます。

僕ね、櫻井さんが、そこにいると、安心するんですよ。なんとなく、安心する。あのねえ、あまり自分を立派に見せようとする気がさらさら、あの方、ないんですよ。大きく見せようとする気がさらさらない。失敗しても失敗しても、気が付かない。完全な自分、なかなか自分をオープンにするなんて事、なかなか



か難しいですけども。話し合いの目的と、問いと、参加者の思考に寄り添う姿勢を見せることで、参加者を安心させる存在になることができます。安心観って、さっきのファイヤーサイトではありませんが、ここに参加していることが、何か、安心してここにいられるという気持ちになれるかどうか。非常に大きな、テーマではないのかなと、考えています。

6番、何が起きてもチャンスだから、隠さない、抱えない。確かに、場というのは、いろんなことが、起きちゃいますよね。いろんな事が起きちゃいまして、実は今回も、この会場の設営が、こんなことになっちゃったんですよ。それは、私の責任ですが。人生、富さん、いろんなことあるよね。そのときに何が起きても、チャンスだからって、思えるように。隠さない、抱えない。本当に、ごめんなさい。と、言っちゃうしかないじゃないですか。だって、そうしようと思って、そうしたわけじゃなくて、なっちゃったんだから。「すみません。」と。想定外の事が起きる。のではないかと、ファシリテーターが、ビクビクしては、場が固くなってしまいます。話し合いの場で起きることは、全て、話し合いをダイナミックに展開する、深い、ヒント。チャンスとして受け止めます。だから、話し合いというのは、いろんなことが、起きちゃったほうが、たぶん、いいだ。と、どっか、割りきっちゃうみたいところが、大事かもしれない。松本さん、お葬式のときに、いろんなことが起きちゃうということが、長くやっていらっしゃるとあるでしょうね。



松本

笑いそうに、なっちゃうことが、あります。(会場 大笑)というのは、焼香のときに、お香をやるのですが、人数が多いときに、隅のほうに、炊いたお香が、いっぱいになって、その熱いほうに、手をやる人がいて(会場 大笑)読経中、笑えませんから。



今日は、いろんなことが、あるという意味では。RLI 場合には、それは、チャンスだと、受け止めながら、展開をするという、そんな気持ちで。今日まさに、みなさんにお話したいのは、スキルの問題ではなくて、スキルを高めようというのではなくて、どんな気持ちでいる、いられるかということが、大事だという事を、皆さんと一緒に、考えてみたいということで、いまのはなしをしているところです。手に負えないことが起きたら、邪魔したり隠したりせず、起きたことをそのまま受け止め、参加者と共有することで、ともに解決の道をさぐるような場が生まれます。そうですね。何か起きたときに、その起きたことを、隠したり、ごまかしたりするのではなくて、起きちゃったことだから、そこは、みんなでそういうものだと、して、受け止めましょう。ですね。

7番目。どんな話し合いからでも、気づきを得ることができる。



活発に意見交換をしたら、そこに結論がなくても、じっくりと振り返るのならば、気付きは必ずあります。どうしても、セッションをやっていると、何か、結論づけたくなりそうですね。これって、こういうものだというふうに、言いたくなったりしてしまう。ある意味では、ファシリテーターは、自分なりの考えをしっかりと進めるのが大事だと、私は、思うんですね。だからといって、その、自分もっている考えが正しいということでは、ないはずなんで、活発に意見交換したり、そこに結論がなくても、じっくり振り返るのならば、気付きは必ずあります。振り返るということが、すごく大事だということなんだと。なるんでしょ。

続いて、8番目。ファシリテーションは、常に不完全なもの。これは、すごく大事な事で、どうもやっぱり、上手になりたい。完全なものを、完成させたい。と思うところに、どこまでいっても不完全なものだというふうに、やっぱり思っている。だからこそ、不完全ななかに、何かを見つけていくということではないかと思えます。いくら周到に準備しても、本番に、起こる事、全て、想定することは、不可能です。そうですね。つまり、どんな準備しても、どんな経験を積んでも、ファシリテーションは常に不完全でしかありません。ですから、この不完全さというのが、たしかに、スキルを上げていこう、何をしようという、完全なところに自分を高めていこうという、その気持ちは決して悪いことではないと思えます。だからといって、完璧になにかをしまおうと考える必要はない。むしろ、不完全なことのほうが、自然であり、たぶん皆さんも、参加する皆さんが、何かを気付きを得られる。ということではないか。ということだと思います。その場その場で起こる事を、謙虚に受け止めながら、その時その時の、精一杯、で、ファシリテーションをしていくことが大事です。一生懸命やるということが、とても大事なことである。不完全だからこそ、そこには常に、実践を振り返って学び、さらに熟達する余地がある。ということになります。今日は、皆さんと改めて、この、ファシリテーターガイドブックの、第5節を皆さんと、読ませて頂きましたが、やっぱり、ファシリテーションマインド、の大事さを是非、皆さん、お感じ頂ければと思っております。それから、ファシリテーションガイドブックの最初に、「3人寄れば文殊の知恵を実現する、4人目になるために」それがファシリテーターであり、そのための、ガイドブックだということになるかなと、思います。富さん、うなずきながら、お話を聞いて頂きました。いかがでしょうかね。1期生としての感想を是非。

富

おそらくですね。ファシリテーター。ディスカッションをやっている皆さんが、必ず、ぶち当たるものが、あると思うのですが、今日、初めてこられた方が、この場に、それが、一つのセッション、グループのなかに。二人も





いると、話題が止まってしまう。といいますか、ファシリテーターが、あらかじめ、一応、自分の構想を練って、この50分の間に、こんな雰囲気、進めていこうと思っているのですが、初めてのかたがいると、予定外のことが、起こるのです。ですから、その人を、後に回しますね。と言ってしまうと、孤立させてしまうんですね。これを、いかに、孤立させないで、それを取り組んでいくかと、いうこと。これが、何度もぶち当たる。それと、話題が止まってしまう。そのときに、やっぱりファシリテーターが、自分を大きく見せて、私も、そうだったんですよね。そうだったんですよね。例えば清田さんなんか、大先輩ですから、清田さんのほうが、どうぞ、この件について、御質問についてちょっと、アドバイスお願いできませんか。みたいな感じで、ちょっと、逃げ口を、やっぱりこれ、数をこなしていないと、なかなか、経験できないことを。あとは、周りに、ファシリテーターの控えの方達が、しゃべってもらおうとかね。本当に、止まってしまうのが、一番怖いんで、雑談だって、雰囲気。それも、ファシリテーターの、なんというか、雰囲気が、本当に皆さんに伝わるので。その辺にポイントの一つかなと、4番見ても。そうですね。富さんは、そこにいるだけでも、なんとなく、雰囲気が、ありますよね。まさに、ファシリテーターにうってつけということで、是非、お忙しい中、御参加いただければというふうに思います。そろそろ4時半で、終わりの時間になりました。何回もくどい話になってしまうのですが、来年の2月から始まるパート1 パートシリーズ、是非、それぞれのセッションチームの編成に加わっていただく話もありましたが、楽しく進めていきたいと思っています。ということで、皆さんの自己紹介、ファシリテーターガイドブック進めさせていただきました。それでは時間なので終了します。

休憩 10分



挨拶 第2790地区代表ファシリテーター 梶原 等 (千葉RC)

ちょっと、予定していなかった予定を作ってしまった、すみません。懇親会には後から入ります。改めまして、日本支部代表委員の千葉RCの梶原です。総評じゃないんですが、実は私今、仕事では建設の設備設計の仕事をやっている、一般社団法人 日本建築設備設計事務所協会連合会という、全国を束ねている会の副会長をやっている、賛助委員会とか、いろんな委員会の担当をやっています。それで、設計、若手ディスカッションを企画しようと、連合会のなかで。賛助委員会のそういう企画になりまして、8月31日に、設計事務所の若手委員、大手メーカーの、営業若手の人たち、10人を、相手にして、パネルディスカッションを、企画したのですが、結局はRLI方式でやりました。そのときは、私がファシリテーターをやって、本当に、こういうふうに、コの字型で、リーダーになっていって、テーブルに入って行って、吉田さん





は、どういうきっかけでお父さんの仕事を継がれましたか。とかね、矢代さんは、学校建築家なんだけれども、今、環境のことを、メーカーとしてやっていますけど、受けてるインパクトは、どうですか。みたいな、具体的に、やってですね、最初、初めて会う人ばかりで、全国から人が来てますから、アイスブレイクの時間を取ったりして、実際にRLIで私が勉強したことを、私が実践して、3時間くらいのディスカッションだったのですが、すごく和んで、自分が言うのもあれですが、非常に良い評価を頂いて、やりました。もちろん、皆さんは、ここで、リーダーとして学ばれて、まずはクラブに持ち帰って頂いたり、あるいは、クラブのなかの委員会に持ち帰って頂いたり、また、会社、関連の団体、あるいは、地域の活動に、まるっきりRLIのシステムを、ポンと入れようとすると思うんですが、

ノウハウを、上手く応用して頂くと、非常に、そこに参加している人たちが、和むという。これを体験してきましたので、これから、11月12月と、グループごとの、ミーティングがあると思いますので、そこもしっかりと、勉強して頂いてですね、2月から始まる、セミナーのほうは、今度はリーダーとして、まずはそこで、実体験してもらって、それぞれの社会のほうに持ち帰って頂けると、「ああ、ロータリー、まずはやっていてよかったなあ。」「RLIに参加して、良かったなあ。」「DL やってよかったなあ。」という事が思えると思いますし、その声をまた、クラブの皆さんに、お届けして頂ければ、クラブはますます活性化すると思います。また、懇親会のほうでお会いしたいと思います。今日はどうも、ありがとうございました。(会場 拍手 拍手)



RLI 推進委員長 清田浩義 (千葉 RC)

振り返り。先ほどのファシリテーションマインドについて、皆さんからご意見を頂きたいと思います。吉田さん。何かお感じになること、ありましたか。お聞かせいただけますか。



吉田 理愛 (勝浦 RC)

すごく頂いて、清田さんに、読んで頂いて、すごく、「あっ」と思ったのが、私結構、こういうふうに通っていて、ここに落としていこうな。と思ってやっているところがあったのを、思いました。それは、アカソのやな。というのが、ちょっと、感じました。どちらかというと、私のファシリテートは、準備をすごく入念に、するタイプなんです。一応、データを。もらうじゃないですか。グループ分けができた。そうすると、どこどこクラブのこの人は、どんな人だなと。いくつくらいかな。歴は何年。今、何の委員会をやっているのかな。時間があるときは、そのクラブ、こんな奉仕活動をやっているんだなと。とか、結構、中身まで見て行って、そのなかで組み立てて行くんですね。で、落とすところでやっていこう。という風なところがあったので、ちょっとそれは、私、今年度は反省して、自然な感じで、やればいいのかと、ちょっと反省した次第でございます。でも、



準備は、大事です。去年は、普通に、リアル。その前は、ZOOM だったんですが、去年とかすごく、思ったのが、このグループ分けするじゃないですか。1限から6限までこの部屋で、他の人とやるのを見て、やるんですが、ここで、富さんの話じゃないですけど、自分があたってときに、歴がみんな若い人だと、すごい、ちょっと話を振るときに、困っちゃう。なんか、経験を話してみてください。といっても、入ったばかりで、わからないです。という人ばかりのグループになっちゃうと、すごく、苦労されてグループ分けをされているのは、わかるのですが、たまに、休みだったり、なんなりで、そうなっちゃったときに、先程の話にもありましたけれども、一緒のチームの人が座っているところに、話を振ったり、そういった感じで、日本支部の梶原さんが、たまに、ちょいちょいと、部屋に来てくれるんで、困ったときは、梶原さんに、どうですかね。と、振ったり、ということをしてました。今年は、他の、この人のファシリテーターを、見たいなところを、見学できる制度というのを、いいですかね。たまにちょっと、自分の持ち場でないときに、他所の部屋の、あの人の、見たい。というときには、行って見れるような感じを。



清田

実行委員同士が、どこか聞きに行きたいところに行って、ちょうど自分がフリーのときに。そういうのは、良いんじゃないですかね。

吉田

とてもうれしい。それがやりたいです。という、リクエストです。(会場 拍手)

清田

ありがとうございました。櫻井さん。ちょっと、御意見。



櫻井 宇人 (千葉 RC)

すみません。僕は6年目になるのですが、ファシリテーターになってから。最初の1年、2年くらいは、いかに皆に、問い投げかけて、時間一杯にした答えを、みんなから、全部、全員に、指名して、全員から答えを引き出して、なんとか時間を潰そう。潰そうと、考えていたんです。3年前くらいなんですが、東京臨海 RC のオオコシさんという方、だったんですが、その方が来たときに、新入会員の、指導をする担当を、5人くらいつけているという話をして、千葉 RC は、一人しかいなかったんです。その一人が休むと、新入会員は、一人つきりにはってしまうので、いつもどうしたら良いのか、考えたときに、二人にしようということ、考えついて、やり始めて、そのアドバイスを、RLI から得ることができたので、答えを引き出そうとするのではなくて、自分が欲している答えを、みんなから引き出したら、それこそ、時間を、自分も潰すことができますし、時間を気にせず、話すことができると思ったら、急に、



肩の荷が降りて、時間が足りなくても、時間を潰すのが、大変になるよりも、50分以上を使ってもよいから、人の話を聞いたほうが、とても、ファシリテーターとして楽だなと、気付いて、去年から、自分の聞きたいことを、みんなに聞くようにし始めたんですよ。そしたら、千葉 RC にもフィードバックができるし、周りの人も、聞きたいこと聞いてくださいよ。という話をすると、みんな聞いてくれると思います。すごい場が活性化することになったんですよ。今回、清田さんが、この話を、本を、読んでいくときに、なんか、こういう考え方って、僕、合っていたのかなと。というのを、ちょっとなんとなく感じたので、これからも、実践していけたらなど、というのを、今、感じました。



清田

今、吉田さんの話も、櫻井さんの話も、どうしたい、こうしたい。というよりも、自分がどんな気持ちでいるか。どうありたいか。ということによって、結果として、話して、話してと言わなくても、どんどん話してくれるようになるのも、自分の言い方が変わること、変わってくる。という、ことなのかなと。というふうに思います。山本さん。ちょっと、いいですか。

山本 衛 (松戸西 RC)

今回、清田さんとのテキスト読み合わせで、聞いたかったことが、ありまして、失敗が誰でもあるということで、33 頁。ファシリテーションは常に、不完全でしかありません。ガバナーとか、もしくは、偉い方が、やっても失敗があるんだと。どんな人でも、完全なファシリテーションというのは、あり得ずに、常に不完全なものだと。ということは、自分たちの不完全は、当然のことなのだなと。最初のころは、ずっと、失敗続きだったんですね。失敗で、失敗で、盛り上がらないなど。思っていたんですが、盛り上がったときの喜びですね。みんなが、意見を我先に、と言ってくれるようになると、「今回は、良いディスカッションが出来たなあ。」と、思うようになりました。常に不完全というのは、よく理解できるのですが、皆の満足するディスカッション。そちらを目指したいなど、という思いを、強く持つようになりました。今回はありがとうございました。



清田

はい。ありがとうございました。そうですね。なかなか、こう、自分がやるからには、こうしなきゃならないという気持ちが強くなると、不完全という言葉とは、間逆に行動がなってしまうので、不完全が当たり前。とうのが、大事だね。というのが、ポイントかもしれません。是非、これからも皆さんと一緒に、ガイドブック、読みながら、勉強していきたいと思えます。はい。ありがとうございました。最後に松岡さんの方から。



諸事お知らせ 松岡 邦佳（木更津東 RC）

RLI 推進委員会の松岡から、皆様に御連絡とお願いがありますので、よろしくお願ひいたします。前回、ブラッシュアップ2に出られた方、最後にポリオの赤の話が、なんで赤なのか。という、答えが出なかったのですが、私も言い出しっぺだったので、たまたまウチのクラブで、千葉 RC の佐々木さんが、ポリオの卓話に来られて、なんで赤なんですか。と言ったら、わかりません。という話だったんですが。で、僕はそこで、あきらめました。そしたら、あきらめずに、問い合わせを、そこにいる、山本さんと、ウチのクラブのアライさんのところで、お世話になっている堀内が、問い合わせをして、どうやら、赤は、あまり関係ないみたい。という答えを出して頂きましたので、前回、なんでポリオは赤シャツなのか。という問いがありましたけれども、2か所から、赤は、特に、意味がありません。という、回答を頂いております。ので、一応。ご報告させていただきます。流石、すごいですよね。僕もあきらめたんですが、ちゃんとその先を、調べようという、山本さん、すごいなあと、僕は思います。続きまして、実行委員会、来週あたり、だと思いますが、皆様のところに、実行委員会、の募集の御連絡をさせていただきます。ここにおられる方は、実行委員会参加ということで、よろしいですかね。返事とか忘れちゃうかたも、いると思うので、ここでOKということで。私、イヤですという方は。僕、最近目が悪いんで、見えないんで。（会場 笑）ここにいる方は、返事がなくても、実行委員会参加、しますということで、承りましたので、よろしくお願ひいたします。

11月27日の、19時から、リーダー・サブリーダーミーティングを ZOOM で行う予定です。これは、各チームのリーダーと、サブリーダーの方の打ち合わせとなります。その後、12月中に、チームミーティング、各チームのメンバーのミーティングを行う形になるかと思ひます。各チームのリーダー、サブリーダーの方から、日程等の御連絡がいくかと思ひますので、こちらのほうは、打ち合わせですので、参加頂ければと、たぶん ZOOM で行う形になると思ひます。よろしくお願ひいたします。

3月2日に、研修系三委員会合同のセミナーを開催致します。詳しい連絡は、事務局に送ると思ひます。是非、希望の方は参加頂ければと思ひます。

この後12月になると思ひます。ここにおられる方、RLIが好きだという方、多いと思ひますが、実際にパートシリーズの参加者を募集する形になります。皆さん、RLIに来てよかったなと思ひますので、是非、後輩というか、メンバーの仲間にRLIに出席したら良いよと、いうことを、お声がけいただければと、いうふうに思ひます。僕の個人的なアレですが、参加者60名ですけれども、僕の願ひとしては、90名申し込みさせたいと、思ひしております。で、清田さんを、慌てさせます。（会場 笑）今回の会場を取れていなかった



のは、リハーサルだったと。(会場 笑) 90 を、どうやってやるかということ、清田さんに、必死に考えてもらうようにしたいというのが、僕の夢ですので、是非、沢山のメンバーで参加頂けるように、皆様からの、お声がけもよろしくお願い致します。

最後に、こちらのいられる方のなかで、RLI のテキストが昨年から変わっております。ファシリテーターをやる前提でお配りすると思っておりますので、古いのしか持っていない方、いらっしゃいましたら、次回、用意します。古いテキストしか持っていない方、RLI 推進委員会まで、お申し出頂ければと思います。私のほうからの連絡は、以上になります。

一日、ありがとうございました。



会場の様子



懇親会の様子